

AMAKURU RWANDA

Ukuboza #8



青年海外協力隊 2017 年度 4 次隊
 ルワンダ派遣 (2018/3~)
 コミュニティ開発 (水の防衛隊)
 野田 恵莉



Mwiriwe ! (こんにちは!) 2018 年 3 月末より東アフリカの赤道直下に位置するルワンダ共和国に派遣されている野田恵莉(のだえり)です。

東部県ンゴマ郡ムラマセクターに赴任して 8 か月が過ぎようとしています。いつもの道を歩いていると、目を疑う光景が飛び込んできました。



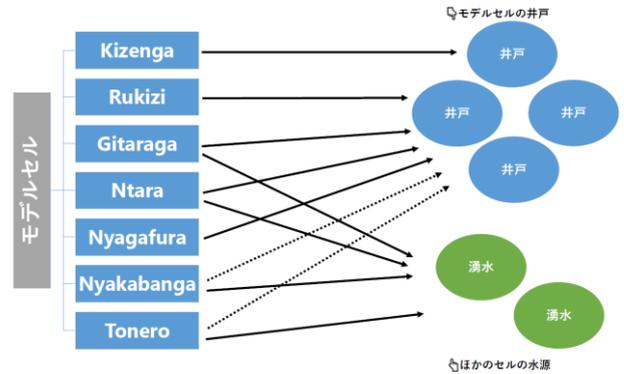
Cook! cook!

📷: 何羽の鶏が括り付けられているでしょう?

さて今月も、私の活動と暮らしについて紹介します。

再トライ、いざ住民集会へ

これまで話してきたモデルセル (町) の関係を整理すると…下記図のように 7 つの村が存在し、それぞれに村長がいます。そのうちの 2 つの村には井戸があり、水委員会が存在します。



📷: 各村の住民が使用する水源を特定するのは困難。

さて今回は、7 人の村長という心強い味方を得たところで、火曜日の住民集会へ。先月号で紹介したキニアルワンダ語のハンドアウトを拡大コピーし、住民に説明してきました。

井戸がある 2 つの村の住民は、井戸の維持管理をする水委員会が存在するうえ、これまでも修理や集会に通った甲斐もあり、**すんなり同意を得ることに成功!**

しかし、問題はその他 5 つの村。水使用者が明らかな村は 500RWF/3 か月の水料金支払にはほぼ同意を得たものの…。9 月に、1 つの水委員会により水料金徴収が行われたようで、その際にレシートを受け取っていないなどの苦情が多発してしまいました。(左図参照)



📷: ハンドアウトを使用し、住民に説明している様子。

そこでセクターやセルの職員と話し合い、**責任の所在をはっきりとさせ**、12月に集金できるよう、水料金支払者の記録本を準備するよう水委員会に呼びかけるという結論に落ち着きました。

このような話を何か月も続けている間に、井戸が何基も壊れていくのを目の当たりにしています。先日、WASAC(The Water and Sanitation Corporation)のテクニシャンや隊員と任地の井戸稼働状況(一部)をチェックしました。**13基中5基が壊れており**、使われておらず、残りの8基が稼働中です。ただし、**稼働中の8基も故障につながる問題が発見され**、セクターと対応策を考えたり、住民に問題を伝え、使い方の指導をしています。

安全な水を供給するために建設された井戸ですが、このまま放置してしまえば全滅してしまう。そんな危機感と同時に、井戸が故障しても他の水源で水を得られ、維持管理に関心の低い住民や行政の姿を見てきて、井戸は本当に必要とされているのかという疑問が湧くようになりました。

赴任以来、奮闘してきたしくみづくり。私と同じように他の任地の隊員も頭を悩ましているようです。さて、今こそ、水の防衛隊が課題解決に向けて、チームとして一致団結するときかもしれません！

----- **ピソケ山、登山にチャレンジ！その1** -----

今回、富士山にも登ったことのない私が、北部県に位置する活火山、ルワンダで**3番目に高い(3,711m)ピソケ山**に登ってきました！

任地から**ゴリラ**で有名なムサンゼまで7時間のバスの旅からはじまります。お尻が痛くなりながらもムサンゼに到着すると、なんとも美しい山々が目に飛び込んできました。



📷:ムサンゼのまちから眺める風景。中央がピソケ山。

翌日、しっかりと腹ごしらえをし、早朝に出発。雨の心配がされるため、ダウンやカイロなど万全の寒さ対策をして挑みました。

途中、入山料を支払い、バリスタの入れるおいしいルワンダコーヒーで一服し(登山前なのに)、登山を先導してくれるレンジャーのリーダーからブリーフィングを受けました。雨季のせい、観光客のムズング(外国人)も少ないようです。私たちはオランダ人夫妻と一緒に登ることに。その後、車に乗り、**アフリカンマッサージ***を受けながら登山口に到着しました。

木のスティックを渡され、いざ出発！あたり一面に咲く**ピレトリン(除虫菊)のお花畑**、白や紫色の花の咲く**ジャガイモ畑**を抜け、見晴らしのいい山肌まで辿り着くと、雲の下にムサンゼのまちが広がりました。



📷:お花畑をズンズン進む。

リーダーは**容赦ないペース**で進んでいきます。しかし、遅れ組をサンドイッチするかのよう、後方にも4人ほどのレンジャーたちが。標高2,700m付近につくと、「**ここまではお遊び。ここからが本番だ**」と言われました。おっしゃるとおり、目の前には**ジャングル**が広がっているではありませんか。ぬかるんだ道をハの字に足を開いて渡り、岩を這い上がり、ジャンプ、ジャンプ。滑って転んで泥だらけ。レンジャーが手を差し伸べてくれなければ、自力では前に進めない。さて、無事に登頂できるのでしょうか？

では、来月もお楽しみに。Murabeho~!(またね!)

*アフリカンマッサージ | 未舗装の道で車体が激しく揺れ、まるでマッサージを受けているかのような感覚になること。